

技が冴えるあらかわの文化財

— 町屋四丁目実揚遺跡と荒川区の伝統工芸 —



発見された木製井戸枠

【交通】 区立荒川ふるさと文化館
JR常磐線・東京メトロ日比谷線・つくばエクスプレス南千住駅、京成線千住大橋駅、都電荒川線三ノ輪橋駅
荒川総合スポーツセンター
JR常磐線・つくばエクスプレス南千住駅、東京メトロ日比谷線南千住・三ノ輪駅、都電荒川区役所前・荒川一中前



井戸の中から見つかった土器



井戸枠の中の様子

下町の低地から古墳時代の遺跡発見！

平成17年5月、下町、荒川区の土中から、古墳時代を中心とする遺跡が発見され、発掘調査が行われました。場所は、都電荒川線・京成線が交差する町屋地区の賑やかな商店街からやや入った住宅地。弥生時代末から江戸時代にかけての遺跡で、昔の小字名から「町屋四丁目実揚遺跡」と名付けられました。弥生時代末から古墳時代前期の地層からは、周溝と呼ばれる溝跡、井戸跡、土師器・須恵器などが発見されました。溝跡は、排水のために住居の回りに掘られたものと考えられます。ここには水辺での暮らし方の工夫が見え、古くから低地での生活が営まれていたことに驚かされます。

古代人が作った木製の井戸枠

特に注目したいのは、井戸跡の1つから木製の井戸枠が発見されたことです。井戸の中からは、井戸埋めの儀式で使われたと思われる壺型の土器等が見つかりました。井戸枠は3枚の板を組み合わせたもので、よく調べてみると、モミの大木をくり抜いて造った丸木舟をリサイクルしたものだということが分かりました。

表面に残された工具の跡に、荒川区に生活の跡



荒川区の職人さんたち

を残した、古代の「匠」の高度な技をかいまみることができます。

「あらかわの伝統技術展」で技に出会う

「匠」といえば、荒川区には江戸以来の伝統的な技術をもつ職人さんがたくさん住んでいます。



伝統技術展会場

区教育委員会では、昭和56年から伝統工芸技術保持者の調査を実施し、区の無形文化財として登録・指定し、保存・普及に努めてきました。中でも、毎年恒例の「あらかわの伝統技術展」は、伝統工芸の技、技から作り出される作品、そして技を伝承する職人さんに直に触れていただくための職人の祭典で、今年で27回目を迎えます。9月8日(金)から10日(日)までの3日間、荒川総合スポーツセンターにおいて、指物、ラシャ切り鋏、鍛金、木版画彫・摺、桶、木目込み人形、扇子など70名以上の職人さんを一堂に会し、伝統工芸技術保持者による実演・展示を行います。荒川区が誇る「匠」の技の冴えをどうぞ御覧ください。

【問い合わせ先】 区立荒川ふるさと文化館
電話03-3807-9234

(「あらかわの伝統技術展」については、荒川ふるさと文化館にお問い合わせください。)